

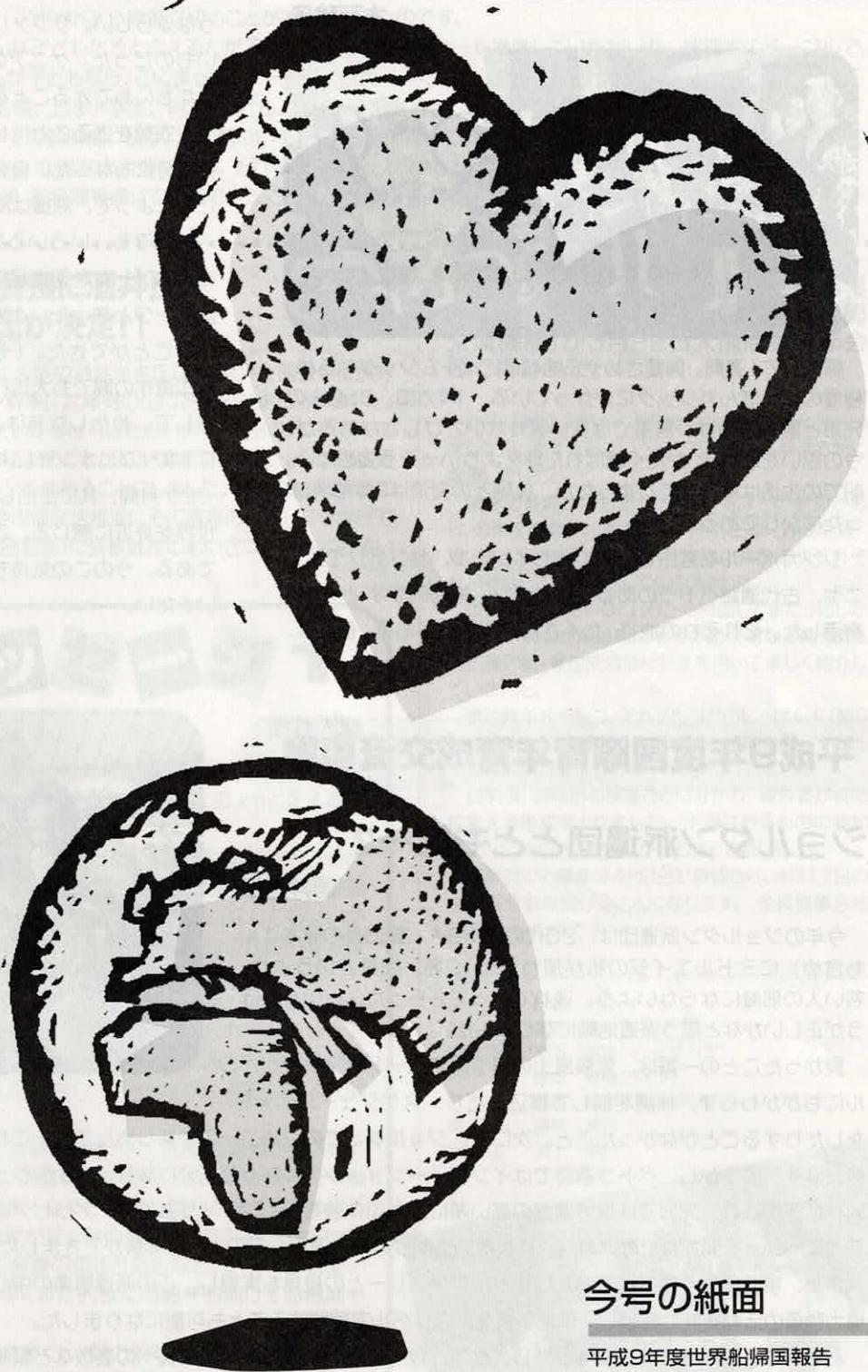
澪標

Miotsukushi

1998年4月1日発行

No. 67

Miotsukushi



今号の紙面

- 平成9年度世界船帰国報告
- 国際青年育成交流事業報告
- クッキングコミュニケーション報告
- 平成10年度総務庁
青年国際交流事業説明会報告
- リレーメッセージ①

帰国REPORT



平成9年度世界船

ケニアの象は赤かった!

木戸穂子



帰国して1週間。興奮さめやらぬ私は、ホームシックならぬ、極度のにっぽん丸シックにかかっている。14カ国、350人の兄弟と離れるのは、言葉では言い表せないさびしさがあるが、今の思いを忘れず、かたく結ばれた絆をよりいっそう強めたい。船での生活は終わってしまったが、彼等との交流は、いま始まったばかりである。

シンガポールを経由し、夢の島セイシェル、サファリ王国ケニア、古代遺跡ペトラのあるヨルダン、神秘的なオマーンに寄港した。それぞれの地で、たくさんの思い出がある。例えば、

ケニアの国立公園マサイ・マラ。限りなく続く大草原は、想像を絶するものであった。朝6時から、ジープでサファリをまわり、野性の動物に会うことができた。動物園の灰色のゾウとは違い、ケニアのゾウは赤かった。その土地の土が赤いため、そうなるらしい。サファリに着くまでの道というと、ひどく険しいものだった。ケニアの青年は、様々なことを考えていたが、私たちにもできることを考え、ストリートチルドレンに文房具や、衣類を送ることにした。船内で集めたものは、ダンボール何箱分にもなった。自分の目でその国を見、その国の人と話すことによって、意識は高まっていった。

船内でも、いろいろなことが行われたが、今回の世界船で、一種のブームを巻き起こした関西和太鼓は、忘れられない思い出の一つとなった。4ヶ月間、日本で練習し、寄港地でも披露することができた。「そりや、そりや」というかけ声は、外国青年の間でも大流行し、全員で大合唱となった。これを記念して、わたしたちは、「そりやそりやの日」をつくり、1年に1度リユニオンをしようと決めたのであった。

2ヶ月間、共に生活してきた友は、いまや兄弟である。今は、世界を身近に感じる。この事業で得たものすべては、私の財産である。今のこの気持ちを大切に、より強く、深いものにしていきたい。

平成9年度国際青年育成交流事業

ヨルダン派遣団とともに…②

酒井洋幸

今年のヨルダン派遣団は、20代の青年9人（副団長の藤本さんも含め）にミドルエイジの私が加わった10名。団長というより、若い人の邪魔にならないよう、連れていってもらった、といったほうが正しいかなと思う派遣活動になりました。

良かったことの一番は、気候風土の違う国でハードなスケジュールにもかかわらず、体調を崩して寝込んだり、スケジュールの変更をしたりすることがなかったこと。次いで、ヨルダンでのフルコースを楽しめたこと。これは、ヨルダンの自然や歴史に触れる機会はすべて生かし、ペトラ遺跡ではインディージョーンズになった気分になり、ジェラシュではローマ時代のみごとな円形劇場や列柱に圧倒され、死海では塩分濃度の高い湖に浮かぶ体験をし、ワディラムでは、アラビアのロレンスの足跡を辿り、そして、唯一紅海に向かって開かれた町アカバでは抜群の透明度の海に遊ぶ、このような体験ができました。

また、事前に強く要望していたロイヤルファミリーとの接見も実現し、この派遣事業の中心活動である、ヨルダンにおける海外協力隊員の活動と共に経験し、現地事情を庶民レベルで理解することも可能になりました。

あわせて、国の派遣ならではと感じさせる、政府機関や地方行政機関首長への表敬など緊張する場面も多く、現地青年との交流場面も随所に準備されていて「特別」と感じる経験の連続で、団員たちにとっては本当にいい経験をしたものと思っています。

この派遣を糧にして、団員たちはそれぞれの地でIYEO活動に入って、活躍してくれることを期待するとともに、この後、大阪から多くの青年たちが派遣活動を体験してくれることを願って報告とします。





婦人会館、9:30。今日のイベントの準備は、何人かのスタッフを中心にして始められました。見慣れた食材+変わった調味料、とても大きな太刀魚。準備段階にたずさわっていなかった私にとって、ワクワクものでした。これからどんなお料理に変わっていくんだろう。そう私は、保育係。幸か不幸かお料理チームには入らない。思い返せば半年前、タコスの準備の日。たかがアボガドすら無傷で切ることができなかつたのです。

どんな子どもたちと会えるんだろう。子ども達のコーナーも準備していただいた。調理室のテーブルでは何とまっ白な紙を全面にはっている。私が子どもなら、このまっ白なテーブル、何色でらくがきしよう!?と思うでしょう。しかし、私が一番子どもだったのかもしれない。訪れた子ども達、上は小学生、下は3才さん。クッキーの型ぬきひとつとっても、年長の子どもが、3才の友だちを使い優しく教えてくれる。そんな調子での数時間。私は、ただ側にいて、子ども達の持っている優しさや気配りを改めて教えてもらった気がしました。皆で作ったクッキーはもちろん、立派な太刀魚も粉も、それぞれの国らしい味のお料理になっていました。もちろん、おいしかつたです。各テーブル、大人数にもかかわらず、お料理を通じて交流できたことが、一人ひとりの表情から伝わってきました。(木下晶恵)

新年度本部の会長に酒井氏、副会長に焼野氏が決定!!

先日の代表者会議で、IYEO本部の会長に大阪の酒井洋幸氏(現副会長)、副会長に焼野氏(現近畿ブロック幹事)また、近畿ブロック幹事に兵庫県の山口英雄氏が選出されました。大阪IYEOの活動もますます皆で盛り上げていかなければと思います。先日のアンケート結果からも先輩諸氏が様々な分野で活躍されていることがわかり、ぜひ、メッセージや近況報告などいただけたらと思い、リレーメッセージを始めることにしました。第1回は、事業参加後から現在までの約30年間、青少年育成や国際交流推進にその青春の全て(?)を捧げてこられた酒井洋幸氏(大阪府青少年活動財団勤務)に会長就任のあいさつを兼ねてお願いすることにしました。

リレーメッセージ

昭和42年、第9回日本青年海外派遣中欧班

酒井洋幸

新企画、「リレーメッセージ」の第1号という光栄に浴すことになりましたが、これはひとえに、新年度からIYEOの会長を務めることから、ちょうどええお前やれ!と言われての結果です。

図らずも会長という重責を任されることになったのですが、勿論地方から出るのは初めてのこと。お受けするには少々悩んだりしたのですが、現在の情報機器の進歩からして連絡を取ったりすることにはあまり苦労しなくともいいかと考えました。しかしながら、総務庁、関係の中央団体とのおつきあい等では若干影響がでるかとは思いますが…。

でも、ご存じのように長く役員をさせてもらっていると、中央では見えないものが見えていたり、聞こえないものが聞こえてきたりと、地方の利点も多々あることは事実です。このような利点を最大限生かし、職務に取り組んでいければと考えていますので、大阪の皆さんへの後押し、ご協力を切にお願いする次第です。

大阪は、この「みおつくし」を通じて会員の皆さんに、共通の情報が送られているという意味で先進地です。しかし、派遣も回を重ね、IYEOメンバーの年齢幅も広がって来て、またメンバー数も多くなると、つい「誰かが出てくれるだろう」ということになり、集まりへの参加度が低くなる傾向にあります。そういう点で、最近の会合への集まりの度合、会費の集まり具合など、いま一つと聞いています。もちろん、これにはもっと早くまた的確に情報を届ける機能も必要なのですが。

このように、情報のキャッチボールを多くし、魅力的な集いを多く持ち、老若男女があい集える機会をつくっていただけることを願って、次の方向へのバトンタッチとします。

次回には、私にとっての素敵なお姉さん、賀元澄子さんにお願いしたいと思います。

cooking communication 3.1. SUN

communication

平成10年度総務庁青年国際交流事業説明会・報告会(主催:大阪府青年国際交流機構)が3月22日大阪府青少年会館で行われた。

昨年は締切った後に応募者を対象に説明会を行いましたが、遅すぎるということで今回は応募する前に開催しました。

連休の最終日にも関わらず30名ほどの参加があり、9年度事業参加者により、日中・日韓・育成交流・東ア船・世界船の事業説明を中心に体験談やそれぞれが感じたことを報告してもらいました。

世界船(1/20~3/19)から帰国してまだ3日しかたたない渕上さんは船の中での出来事など熱く語られ、東ア船・育成交流はビデオを用いて楽しく紹介していました。

また昨年メキシコ、アカブルコでのにっぽん丸(第9回世界船)出港風景のビデオでは、感動的シーンである最後の別れを惜しむ様子が紹介されました。

説明後、興味ある事業ごとに分かれ、報告者が質問に答える形式をとりました。不安はあるものの参加してみたいという気持ちが伝わってきました。

大阪府での募集は4月3日で締切られ、4月17日の中間選考会を受けることになります。全員無事合格して欲しいものです。

報告者

日 中 月岡 大介

日 韓 宮下 健一

育成交流 木下 晶恵(インドネシア)

塚本 秀樹(ドイツ)

藤本 和子(ヨルダン)

東ア船 藤原 博尋

世界船 渕上 晶代



INFORMATION BOARD

平成10年度大阪IYEO総会のお知らせ

大阪城の桜も満開…をちょっとすぎた頃になる4月12日(日)、府立青少年会館にて2時より総会を、また、3時より世界船報告会を行いたいと思います。お花見がてらぶらぶらと、気軽な気持ちでおでかけください。お待ちしてまーす。

自然がいっぱいの和歌山へいらっしゃーい!

近畿ブロック大会が、7月4日(土)5日(日)、和歌山県の主催で行われます。場所や内容は現在検討中のようですが、今のところ、熊野古道散策やバーベキュー、満天の星空鑑賞(オプションでどろ峠、ホエールウォッチング等も可)等、美しい自然を満喫できるプログラムが用意されていますので、お友達と一緒に今から日程を空けておいて、次のインフォメーションを待ってくださいね…。

募集**平成10年度青年海外協力隊春募集説明会**

4月15日・5月11・22日 新阪急ビル(梅田)

4月21日 高槻市立総合市民交流センター

4月23日 NTT大阪研修センター(京橋)

4月28日・5月7日 ビッグステップホール(心斎橋)

大阪以外でも行っています。問い合わせは…

JOCV近畿支部 075-351-0846 香月、飯田まで

近畿青年洋上大学、参加青年募集!! 4月24日締切

近畿2府7県の主催により、近畿の青年が洋上での生活や訪問国の青年との交流を通じ、仲間づくりと国際協力の精神を養います。

・訪問国 中国(上海、北京、大連)

・実施時期 平成10年8月12日(水)~8月23日(金)12日間

・プログラム 洋上(船内)での研修や発表・興味別活動等、ホームステイ、現地青年との交流や交歓会、歴史・文化施設の視察ほか

・参加費 16万円

・使用船 日本クルーズ「パシフィック」

・申込み/問い合わせは 大阪府生活文化部青少年課育成係
06-941-0351 (内4844)**IYEOのホームページができました**

おススメはバーチャルリュニオンのコーナーです。直接メッセージを打ち込んでコミュニケーションができます。同時に二人以上いると会話(チャット)ができます。また、メーリングリストを使って回・事業を越えてのネットワークが広がりつつあります。

*メーリングリスト:一つのアドレスにメールを出すとそれに登録しているひと全員にメールが届くインターネットのサービスです。

今は本部の事務局次長山本さんが管理しています。

メーリングリストへ登録したい方は、山本さんまで直接メールでお申し込みください。 E-mail:katsumiy@gol.com

また大阪では「瀬戸内」以外にIYEO情報を中心にE-mailで会員の皆さんに提供していきたいと思っています。E-mailアドレスをお持ちの方は
E-mail:PDE02564@niftyserve.or.jp 岡本まで、ご連絡ください。

青春後記

日本中をわかつた長野オリンピックも終わり、春本番を迎える。春はいつも、何かのスタートを感じさせてくれるが、今年は特に、オリンピックやパラリンピックを見て、自分ももっとがんばらなきゃと刺激され、具体的に何かやりはじめようと思いつ、とりあえず学生時代に10年間続けていたテニスを週一回またやることにした。まずは、仕事オフの生活から足を洗うことが目標(旦那様は、糖尿病防止のため)。そして、体力作りとリフレッシュができればと思って。

アジアこどもフェスティバルボランティアスタッフ

平成10年7月24~31日、アジア・オセアニア地域14か国の子どもたちが集い、各国の遊びや民族芸能などを紹介したり体験したりする「第1回C.I.O.F.F.アジアこどもフェスティバル」が和歌山県で開催されます。このイベントを支える下記の各種のボランティアを募集します。

- 海外から参加する子どもたちのホストファミリー
7月25日~27日(2泊3日)、和歌山市及びその周辺地域にお住まいの方で子ども2名以上受入が可能な方
- 通訳ボランティア(補助)
オーストラリア、中国、インド、韓国、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、フィリピン、スリランカ、台湾、タイ、トルコ、アゼルバイジャン
- 会場運営ボランティア
- 各国、地域サポート隊
- プレ・イベント推進ボランティア
- 専門分野でのボランティア
ア)民族料理関係 イ)絵本朗読者
ウ)ブレイリーダー エ)ホームページ作成者
オ)手話通訳など障害者対応者
- その他のボランティア

**応募方法**

下記事務局、各県事務所地域行政室で配布している「ボランティア登録用紙」に記入の上、6月15日までに下記あて送付してください。(ホストファミリー希望者は、「ホストファミリー申込書」にも記入)
お問い合わせ先:C.I.O.F.F.アジアこどもフェスティバル実行委員会事務局(和歌山県生活文化総務課内) 0734-41-3980、2052

会費納入のお願い**ピンチ!**

平成10年度の会費を(9年度がまだの方も!!)
よろしくお願ひします!

<http://www.iic.or.jp/iyeo/>

パラリンピックを見ていて思ったのが、あの人達が使っている器具はすごく高いんだろうなということだ。オリンピックは素晴らしいし、あれを見てスポーツを始める人がたくさんいれば、効果は絶大なんだろうけど、ちょっと特殊な人向けっぽいところもあるし、ビジネスサイズされてるところもある。もっと、貧しい国の人達も、子どももお年寄りも楽しめるスポーツやゲームが普及して、大運動会なんかができるれば楽しいだろうな。そうすれば、真に「スポーツ」は国境を越えて、人種を超えて、国際交流できる素晴らしい手段になり得ると思う。

私はとりあえず、おばさんテニスを楽しもおつと。

OH! NO!